

早稲田商学第 472 号
2026 年 9 月

消 息

宮島英昭先生のご退職にあたって

先生の略歴

宮島英昭先生は 1978 年に立教大学を卒業され、その後東京大学大学院経済学研究科で学ばれました。続いて東京大学社会科学研究所で助手を務められたのちに 1987 年より早稲田大学の商学部にて専任講師として着任され、以降、助教授、教授として研究・教育両面で多大なご功績を残されました。

宮島先生のご貢献は多岐にわたり、すべてを網羅的にご紹介することはできません。本日は、まず私が特に重要だと考える研究上の意義をご紹介したうえで、日本の経済政策へのご貢献、早稲田大学の研究へのご貢献の二点を申し上げます。

研究の紹介

宮島先生のご研究については、業績一覧（著書・論文等）をご覧くださいのが最も正確ですが、ここでは私の理解と印象も交えつつ、要点をご紹介します。

宮島先生の研究の大きな関心は、日本の企業システムがどのような姿にあるのか、また、いかにあるべきかという点にあります。言うまでもなく、日本経済が成長していくためには、日本企業が成長することが不可欠です。この意味で、この問いは日本経済を考えるうえで決定的に重要です。しかし、このような問題意識に対して学術的な立場から処方箋を示すことは容易ではありません。宮島先生は、こうした問いに対し、学術的立場から多くの貢献を行ってこられました。

宮島先生の研究の特徴は計量分析と記述的な分析を組み合わせること、また、そのことで、日本経済の長期の変化をダイナミックに記述することにあります。日本の企業システムのあり方を考えるには、経済学やファイナンスの知見から議論することが必要です。しかし、1990 年代頃までは、これらの学問分野の教科書的な知見と日本の現実との間に大きなギャップがあるという認識が少なくありませんでした。メインバンク制や

長期雇用は企業の効率性とどのような関係があるのか、どのような環境のもとで、どのような仕組みは効率的に機能するのか、といった問いに対しては、文化的な側面や歴史的な側面からの解説が多くなされている一方で、経済学やファイナンスの理論からの説明は不十分でした。このギャップを埋めるためには日本の現状を経済学やファイナンスの文脈から理解可能な形で整理する必要がありますが、これは容易ではありません。宮島先生の一連の研究は、この課題に対する最も成功した例の一つです。宮島先生の研究は、日本企業の特徴を、海外の経済学やファイナンスの研究者にも理解可能な形で提示することに成功しています。これらの研究は、日本のみならず海外の投資家・研究者が日本企業を理解するうえでも不可欠なものです。

宮島先生の研究の中心の一つは企業統治です。よく知られているように、近年、日本の企業統治には大きな制度的な変化がありました。こうした制度変更の背後には多くの実証研究がありましたが、その中心の一つが宮島先生の研究です。たとえば、所有構造に関する研究としては、オックスフォード大学出版会から2007年に刊行された *Corporate Governance in Japan: Institutional Change and Organizational Diversity* (Aoki, Jackson, Miyajima, 2007) 所収の論文群に代表される一連の研究があります。その中で、代表的なものとして “The Ownership of Japanese Corporations in the 20th Century” (Franks, Mayer and Miyajima, 2014) が挙げられます。この論文では、20世紀における日本企業の所有構造の変遷をファイナンスの観点から整理しています。本論文がファイナンス分野のトップジャーナルである *Review of Financial Studies* に掲載されていることは、日本独自と思われがちな日本の資本市場の推移が、ファイナンス理論から説明可能であることを示しています。日本の現状をファイナンスや経済学の理論から理解できれば、望ましい政策についても同じ枠組みから議論できます。その意味で、これらの研究は資本市場のあり方を考えるうえで重要な貢献です。

宮島先生の貢献その1：政策決定

宮島先生は政策決定への関与を通じて日本経済へ大きく貢献されています。日本経済について、過去30年間、多くの課題が指摘されてきました。日本経済の成長のためには、日本企業がリスクを取り、成長することが不可欠である一方で、残念ながらポテンシャルを十分に発揮できていない企業が多いのではないかと考えられてきました。この状況

を改善するためにコーポレートガバナンス改革が必要であるとの考えは多くの方に共有されています。現在では、ある意味、ビジネスにおける常識となっている考え方ですが、20年前には、このような問題意識はかならずしも共有されていませんでした。宮島先生は、所有構造や取締役会に関する一連の研究において、コーポレートガバナンスのあり方が日本企業の行動や業績に重要な影響を与えていることを示しています。このことから、コーポレートガバナンスを改革することで、日本企業を活性化させることができるのではないかという政策が生まれることになります。コーポレートガバナンス改革を促進するという考え方そのものは、世界中多くの国で採用されています。このような政策が日本でも重要であることを示すために宮島先生の一連の研究は不可欠であったと考えることができますでしょう。一般に、経済学やファイナンスの研究が高度化するにつれて、現実の経済や市場の現状と乖離するという傾向もあります。しかし、宮島先生の研究は、常に現実の資本市場や経済政策と密接に関連しています。このことは宮島先生の研究の重要な特徴と言えるでしょう。

宮島先生は単に実証研究を通じて市場のメカニズムを明らかにするだけでなく、日本経済のための政策決定にも積極的に関与しています。宮島先生は、多くの委員会に参加していますが、特に重要なのは言うまでもなく、コーポレートガバナンスに関するものです。特に経済産業省では、コーポレート・ガバナンス・システム（CGS）研究会（第1期、第2期、第3期）の委員や、「稼ぐ力」の強化に向けたコーポレートガバナンス研究会の委員を務めておられます。これらの委員会の成果はCGSガイドラインなどを通じて、日本企業に極めて大きな影響を与えています。これらの改革が、いわゆるアベノミクスの中心課題の一つであったことを踏まえると、宮島先生の果たした役割の大きさが理解できます。

宮島先生の貢献その2：早稲田大学の研究・教育面での貢献

宮島先生は早稲田大学においてはファイナンス研究所所長のほか、高等研究所の所長・副所長として同研究所の発展に尽力され、さらに常任理事（財務担当）として大学の財政基盤の健全化に大きな業績を残されています。また早稲田大学外でも、財務省財務総合研究所特別研究官、経済産業研究所ファカルティフェローなどを歴任されています。

数あるご貢献のうち、商学学術院の研究水準を大きく押し上げた点は特に重要だと思っています。現在、早稲田大学は日本のファイナンス研究の主要な拠点の一つですが、宮島先生はその立役者のお一人でした。ご自身で先端的な研究を行われると同時に、大規模な研究ネットワークを構築・維持し、プロジェクトを牽引してこられました。科研費（基盤 A）の研究代表者として、また RIETI のコーポレートガバナンス・プロジェクトのリーダーとして、日本のコーポレートガバナンス研究を推進し、国際的ネットワークの形成に極めて大きな役割を果たしてこられました。私自身も、これらの研究プロジェクトに参加することで、多くの世界的研究者との交流の機会を得て、研究を前に進めることができています。

また、研究大学においては定期的なリサーチ・ワークショップ（セミナー）が不可欠です。現在では商学学術院でも多くのリサーチセミナーが行われていますが、以前は必ずしもそうではありませんでした。宮島先生は広田真一先生等と協力し、Waseda Organizational and Financial Economics Seminar のシリーズを立ち上げ、継続的に運営してこられました。このセミナーシリーズは、現在も活発に行われています。このセミナーシリーズで報告された論文の多くは英文の査読付学術雑誌に掲載されています。

宮島先生はご退職を迎えられるとはいえ、なおコーポレートガバナンス研究の第一線にいらっしゃいます。市場環境の変化が激しい昨今において、日本企業のコーポレートガバナンスのあり方は、日本企業、ひいては日本経済に大きな影響を与えると考えられます。僭越ながら、宮島先生には今後とも、この分野の第一人者として学会および実務界において、後進の道を照らし続けていただければと存じます。

最後に、宮島先生のご業績の一部を以下に収録いたします（研究論文は英文の査読付きの学術雑誌掲載論文のみ。共著論文、書評、学会報告、監訳などは、紙幅の関係から割愛しております）。

【著書・編著】

〈日本語〉

- [1] 『現代日本経済 第4版』有斐閣アルマ、2019年5月（橋本寿朗、長谷川信、齊藤直との共著）

- [2] 編著：『企業統治と成長戦略』東洋経済新報社, 2017年2月24日
- [3] 編著：『日本の企業統治：その再設計と競争力の回復に向けて』東洋経済新報社, 2011年6月30日
- [4] 『現代日本経済 第3版：戦後復興から金融危機後まで』有斐閣アルマ, 2011年6月9日（橋本寿朗, 長谷川信, 齊藤直との共著）
- [5] 編著：『日本のM&A：企業統治・組織効率・企業価値へのインパクト』東洋経済新報社, 2007年6月30日
- [6] 『現代日本経済 新版』有斐閣, 2006年5月30日（橋本寿朗, 長谷川信との共著）
- [7] 『産業政策と企業統治の経済史：日本経済発展のミクロ分析』有斐閣, 2004年9月10日
- [8] 『現代日本経済』有斐閣, 1998年8月30日（橋本寿朗, 長谷川信との共著）

【英語】

- [1] *The Evolution of Corporate Governance in Japan*, Routledge, 2025 (co-edited with Yasuhiro Arikawa)
- [2] *Corporate Governance in Japan: Institutional Change and Organizational Diversity*, Oxford University Press, 2007 (co-edited with Masahiko Aoki, Gregory Jackson)
- [3] *Changes and Continuity in Japan*, Routledge Curzon Press, 2002 (co-edited with Syed Maswood, David Graham)
- [4] *Policies for Competitiveness: Comparing Business-Government Relationships in Golden Age of Capitalism*, Oxford University Press, 1999 (co-edited with T Kikawa, T Hikino)

【論文】

- [1] “Corporate governance reform, and ownership, and control: perspective from Japan”, *Asian Journal of Political Science*, 30(3), pp.260-272, January 3 2023
- [2] “Changes in Corporate Governance and Top Executive Turnover: The Evidence from Japan”, *Journal of The Japanese and International Economies*, vol.47, pp.17-

- 31, March 2018 (with Ryo Ogawa, Takuji Saito)
- [3] “The Ownership of Japanese Corporations in the 20th Century”, *Review of Financial Studies*, Vol.27, No.9, pp.2580-2625, September 2014 (with Julian Franks, Colin Mayer)
- [4] “Benchmarking Business Unit Governance in Turbulent Times: The Case of Japanese Firms”, *Benchmarking: An International Journal*, Emerald Group Publishing Limited, Vol.19, No.4/5, pp.548-566, August 2012 (with Hidetaka Aoki)
- [5] “Corporate mission, corporate policies and business outcomes: evidence from Japan”, *Management Decision*, 48(7), pp.1134-1153, September 2010 (with Shinichi Hirota, Katsuyuki Kubo, Paul Hong, Young Won Park)
- [6] “Japan’s Banking Crisis: An Event Study Perspective”, *Journal of Banking and Finance*, vol.31-9, pp.2866-2885, September 2007 (with Yishay Yafeh)
- [7] “The Transformation of Zaibatsu to Postwar Corporate Groups: From Hierarchical Integrated Group to Horizontally Integrated Groups”, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.8(3), pp.293-328, 1994
- [8] “Organization of the Developmental State: Fostering Private Capabilities and the Roots of the Japanese “Miracle”, *Business and Economic History*, Second Series, Vol.22, No.1, pp.151-168, 1993 (with William Mass)
- [9] “Japanese Industrial Policy during the Interwar Period: Strategies for International and Domestic Competition”, *Business and Economic History*, Second Series, Vol.21, pp.270-79, 1992

久保 克行